

平成26年度

全国学力・学習状況調査

報告書（案）

北九州市教育委員会

平成26年度 全国学力・学習状況調査 報告書（案）

はじめに

今後の課題について（北九州市学力向上検証改善委員長 福岡教育大学 教授 坂本憲明）

I 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果

1 調査結果の概要	1～4
(1) 平成26年度 全国学力・学習状況調査 報告書（概要）	1
(2) 調査の概要	2
(3) 調査結果の経年変化	3～4
2 教科に関する調査の結果と分析	5～39
(1) 正答数分布及び平均正答数からみた本市の児童生徒数	5～8
(2) 全国より無解答率の高い問題数の比較	9～10
(3) 小学校国語・中学校国語	11～23
(4) 国語科の分析及び改善の方向（福岡教育大学 教授 山元悦子）	24
(5) 小学校算数・中学校数学	25～39
(6) 算数・数学科の分析及び改善の方向（福岡教育大学 教授 清水紀宏）	40
(7) 各教科に共通の課題	41
3 学習状況調査の結果と分析	42～56
(1) 学校での学習活動	42～48
(2) 家庭学習	49～51
(3) メディア接触時間	52～54
(4) 生活等と学力の結果から（福岡教育大学 教授 井上豊久）	55
4 調査結果から見られる本年度の課題	56

II 北九州市のさらなる学力向上のために

1 学力に影響を与える要因とこれまでの取組	57～58
2 学力向上のための今後の取組	59～63
(1) 授業における徹底	59～60
(2) 家庭学習の徹底	61
(3) 学力向上に向けた取組の徹底	62～63
3 効果を上げた各学校の取組事例	64～67
4 学力向上についての取組計画	68

I 平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果

- 1 調査結果の概要
- 2 教科に関する調査の結果と分析
- 3 学習状況調査の結果と分析
- 4 調査結果から見られる本年度の課題

1 調査結果の概要

全国学力・学習状況調査

小学校6年		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成24年度	本市平均正答率	79.4	52.2	70.4	56.1	59.7
	全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9	60.9
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-2.9	-2.8	-1.2
	全国平均正答率に対する割合	97.3%	93.9%	96.0%	95.2%	98.0%
平成25年度	本市平均正答率	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4	
	全国平均正答率との差	-2.4	-3.1	-2.6	-1.9	
	全国平均正答率に対する割合	96.2%	93.7%	96.6%	96.7%	
平成26年度	本市平均正答率	69.1	52.6	76.2	55.4	
	全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2	
	全国平均正答率との差	-3.8	-2.9	-1.9	-2.8	
	全国平均正答率に対する割合	94.8%	94.8%	97.6%	95.2%	

中学校3年		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
平成24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8	48.6
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3	51.0
	全国平均正答率との差	-1.6	-2.2	-3.5	-5.5	-2.4
	全国平均正答率に対する割合	97.9%	96.5%	94.4%	88.8%	95.3%
平成25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2	
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5	
	全国平均正答率との差	-1.7	-2.4	-3.4	-3.3	
	全国平均正答率に対する割合	97.8%	96.4%	94.7%	92.0%	
平成26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4	
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8	
	全国平均正答率との差	-2.2	-3.4	-5.0	-5.4	
	全国平均正答率に対する割合	97.2%	93.3%	92.6%	91.0%	

○ 小学校では、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として経年比較すると、国語Bと算数Aは全国平均正答率に近づいている。国語Aはやや下降傾向、算数Bは一進一退の傾向にある。

○ 中学校では、「知識」に関する問題、「活用」に関する問題とも、全国平均正答率を下回っている。全国平均正答率を100%として経年比較すると、国語Aは同程度で推移し、国語Bは今年度下降し、数学A、Bは一進一退の傾向にある。

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

※ 全国平均正答率は、平均正答数を百分率で表示したもの（平均正答数/設問数）であり、全国（公立）の数値である。

学習や生活の状況

<家庭学習等>

- 学校以外（塾、家庭教師含む）の学習時間では、小学校中学校ともに全くしない児童生徒の割合は減少しているが、1時間以上学習している児童生徒の割合は、全国と比較すると、小学校中学校ともに下回っている。
- 小学校では1時間以上学習している児童の割合が増加している。中学校では、平日3時間以上学習している生徒、全くしない生徒の割合は全国よりも多く、2極化の傾向が継続している。
- 「読書の時間」や「図書館の利用」は増加傾向にあり、全国と同程度で継続している。

<携帯電話やスマートフォン・テレビ・ゲーム・インターネット等>

- 携帯電話やスマートフォンを含めたテレビゲームをする時間は増加傾向にあり、小学校中学校とも全国を上回っている。

<学校生活>

- 「学校に行くのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた児童生徒の割合は、小学校中学校ともに、増加傾向にあり、全国と同程度で継続している。

<基本的な生活習慣>

- 朝食の摂食率は、小学校では全国を若干下回り、中学校では全国と同程度である。
- 起床時間・就寝時間が決まっている児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。

<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人と学校の出来事について話をする児童生徒は増加傾向にあり、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 家の人が学校行事に来る割合は、小学校では全国と同程度、中学校では上回っている。

<自尊心・規範意識>

- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがある」「将来の夢や希望を持っている」と肯定的に答えた児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合は、小学校中学校とも全国と同程度である。

成果と課題① 正答率の分布等から

- 小学校の無解答率が、国語A・B、算数Bにおいて改善されている。
- 中学校では、国語A・B、数学Bにおいて、全国平均正答率より上位の人数が増加した。
- 中学校においては、無解答率が全国よりも高い傾向が続いている。また、全国に比べ、B問題において、正答数が0～4問の児童生徒が多い状況にある。
- 小学校・中学校ともに、正答率が平均をやや下回る層が多く、正答率の高い層が少ないという傾向が、続いている。

成果と課題② 領域や観点から

- 小学校算数では、異分分数の加法の計算において、全国を上回っている。中学校国語では、歴史的仮名遣いを直す問題において、全国を上回っている。
- 国語科においては、小学校・中学校ともに基礎的な言語知識・理解に課題が見られる。また、小学校では、立場を明確にして質問や意見を述べること。中学校では、文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書くこと。など記述する問題に依然課題が見られる。
- 算数・数学においては、小学校・中学校ともに基礎的な算数・数学の用語に対する理解に課題が見られる。小学校では、規則性を見出し数量の関係を筋道立てて説明すること。中学校では、事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明すること。など記述の問題に依然課題が見られる。

成果と課題③ 学習指導や研修の在り方から

- 小学校では、講師の招聘や授業研究を行なう校内研修は全国を上回っている。
- 基礎基本を定着するための補充学習について、全国を下回り課題が見られる。
- 家庭学習の課題（宿題）を与えること、教職員の共通理解、保護者に対する働きかけについて、よく行っている学校は、全国を下回り、依然課題が見られる。
- 家庭学習の課題の評価・指導について、小学校・中学校国語で全国を下回り課題が見られる。

成果と課題④ 生活習慣・学習習慣から

- 小学校・中学校ともに、1日あたり30分以上読書をする児童生徒の割合は若干増加傾向にあり、全国を上回った。
- 家庭学習では、全くしない児童生徒が減少し改善傾向にはあるが、1時間以上学習する児童生徒は、全国に比べ大きく下回り、学習時間の不足が課題である。
- メディアへの接触時間はテレビやDVDから、携帯電話やスマートフォンに移行しつつある。しかし、どれも全国を若干上回り、課題がある。

成果と課題⑤ 規範意識や体験から

- 自尊心や規範意識については、全国と同程度であり、若干増加傾向が見られる。
- 友達に自分の思いを伝えたり、聞いたりすることは全国と同程度であり、学校での人間関係も全国と同程度と言える。
- 「将来の夢や目標をもっているか」については、当てはまらないと答えた児童生徒が増加傾向にあり、課題がある。
- 地域行事へ参加する児童生徒の割合は、増加傾向にあるが、地域社会に対する関心は、全国を下回る状況が継続している。

継続的な取組を

—学校・家庭・地域の連携・協力のもと、全体の底上げを目指して地道に、徹底して取り組む—

各学校の学力向上プランにおける取組

基礎・基本及び活用力を高める取組

- 朝自習など特設時間の取組
 - ・朝自習での基礎基本の徹底 ・漢字、計算、暗唱コンクール
 - ・昼食準備時間や帰りの会等での補充学習 ・朝読書
- 学力調査の問題などを利用した取組
 - ・活用力を高めるワークの活用 ・CRTのアシストシートの活用
 - ・チャレンジシートの活用 ・学力調査の過去問題の活用
- 学力調査の結果を利用した取組
 - ・学力調査結果検証職員会議 ・自校採点の実施と活用
 - ・学校HP・学校便りでの「学力向上『決意表明』」

授業改善の取組

- 学習規律の徹底
- 「めあて」「まとめ」の板書
- 発問の工夫
- 1時間の授業内での話し合い活動の設定
- まとめ（振り返り）の時間の確保
- 定期テスト・小テストにおいて活用力を問う問題の出題
- 中学校での教科を超えての研究授業の実施

家庭学習・生活習慣改善の取組

- 家庭学習について全職員の共通理解を図り、宿題に取り組む
- 調べたり、文章を書いたりする宿題に取り組む
- 家庭での学習方法を具体例を挙げて示す
- 宿題・家庭学習は必ず点検し評価する
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用
 - ・「家庭学習約束宣言シート」で月に一回は点検
 - ・「わたしの読書記録」の活用
 - ・「自主学习ノート」等、学校独自の取組の継続

北九州市子どもの未来をひらく教育プラン

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図る。また、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

イ 学校等における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年，中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 [国語A，算数・数学A]	主として「活用」に関する問題 [国語B，算数・数学B]
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などを中心とした出題	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を中心とした出題

② 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査日時

平成26年4月22日（火）

【小学校調査】

1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時間目
注意事項の説明・準備(25分)	国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	児童質問紙(20分程度)

【中学校調査】

朝の時間	1時限目	2時限目	3時限目	4時限目	5時限目
注意事項の説明・準備(15分)	国語A(45分)	国語B(45分)	数学A(45分)	数学B(45分)	生徒質問紙(20分程度)

(5) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象校	対象学校数	調査参加児童数
【小学校調査】	小学校	130校	8094人
	特別支援学校小学部	2校	8人
【中学校調査】	中学校	62校	7510人
	特別支援学校中学部	3校	12人

平成19－26年度 全国学力・学習状況調査の結果について

教科に関する調査(国語、算数・数学)

○ 小学校

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
平成19年度	本市平均正答率	80.6	59.0	80.5	60.7
	全国平均正答率	81.7	62.0	82.1	63.6
	差	-1.1	-3.0	-1.6	-2.9
	対全国比	98.7%	95.2%	98.1%	95.4%
平成20年度	本市平均正答率	62.3	45.2	69.9	47.3
	全国平均正答率	65.4	50.5	72.2	51.6
	差	-3.1	-5.3	-2.3	-4.3
	対全国比	95.3%	89.5%	96.8%	91.7%
平成21年度	本市平均正答率	68.1	46.4	77.1	51.7
	全国平均正答率	69.9	50.5	78.7	54.8
	差	-1.8	-4.1	-1.6	-3.1
	対全国比	97.4%	91.9%	98.0%	94.3%
平成22年度	本市平均正答率	81.8	73.7	71.1	47.4
	全国平均正答率	83.3	77.8	74.2	49.3
	差	-1.5	-4.1	-3.1	-1.9
	対全国比	98.2%	94.7%	95.8%	96.1%
平成24年度	本市平均正答率	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国平均正答率	81.6	55.6	73.3	58.9
	差	-2.2	-3.4	-2.9	-2.8
	対全国比	97.3%	93.9%	96.0%	95.2%
平成25年度	本市平均正答率	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国平均正答率	62.7	49.4	77.2	58.4
	差	-2.4	-3.1	-2.6	-1.9
	対全国比	96.2%	93.7%	96.6%	96.7%
平成26年度	本市平均正答率	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2
	差	-3.8	-2.9	-1.9	-2.8
	対全国比	94.8%	94.8%	97.6%	95.2%

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

平成19－26年度 全国学力・学習状況調査の結果について

教科に関する調査(国語、算数・数学)

○ 中学校

	中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
平成19年度	本市平均正答率	80.5	69.0	69.2	57.1
	全国平均正答率	81.6	72.0	71.9	60.6
	差	-1.1	-3.0	-2.7	-3.5
	対全国比	98.7%	95.8%	96.2%	94.2%
平成20年度	本市平均正答率	73.2	57.9	59.6	46.6
	全国平均正答率	73.6	60.8	63.1	49.2
	差	-0.4	-2.9	-3.5	-2.6
	対全国比	99.5%	95.2%	94.5%	94.7%
平成21年度	本市平均正答率	75.7	72.5	59.5	53.9
	全国平均正答率	77.0	74.5	62.7	56.9
	差	-1.3	-2.0	-3.2	-3.0
	対全国比	98.3%	97.3%	94.9%	94.7%
平成22年度	本市平均正答率	74.5	66.4	60.8	40.9
	全国平均正答率	75.1	65.3	64.6	43.3
	差	-0.6	1.1	-3.8	-2.4
	対全国比	99.2%	101.7%	94.1%	94.5%
平成24年度	本市平均正答率	73.5	61.1	58.6	43.8
	全国平均正答率	75.1	63.3	62.1	49.3
	差	-1.6	-2.2	-3.5	-5.5
	対全国比	97.9%	96.5%	94.4%	88.8%
平成25年度	本市平均正答率	74.7	65.0	60.3	38.2
	全国平均正答率	76.4	67.4	63.7	41.5
	差	-1.7	-2.4	-3.4	-3.3
	対全国比	97.8%	96.4%	94.7%	92.0%
平成26年度	本市平均正答率	77.2	47.6	62.4	54.4
	全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8
	差	-2.2	-3.4	-5.0	-5.4
	対全国比	97.2%	93.3%	92.6%	91.0%

※ Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題である。

2 教科に関する調査の 結果と分析

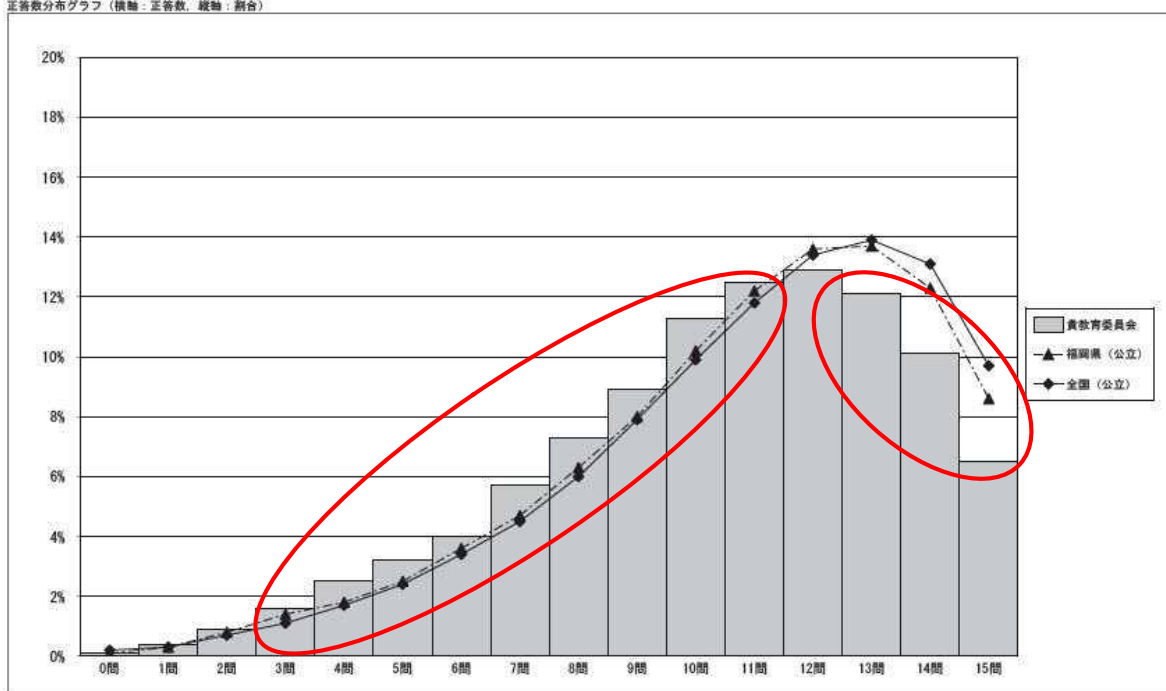
(1) 正答数分布表及び平均正答数からみた本市の児童生徒数

【小学校 国語A】

国語A	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	10.4/15	69.1	11.0	3.1
全国	10.9/15	72.9	12.0	3.1

全国平均正答数 (10.9問)	児童数
11問以上	4,374
10問以下	3,713

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

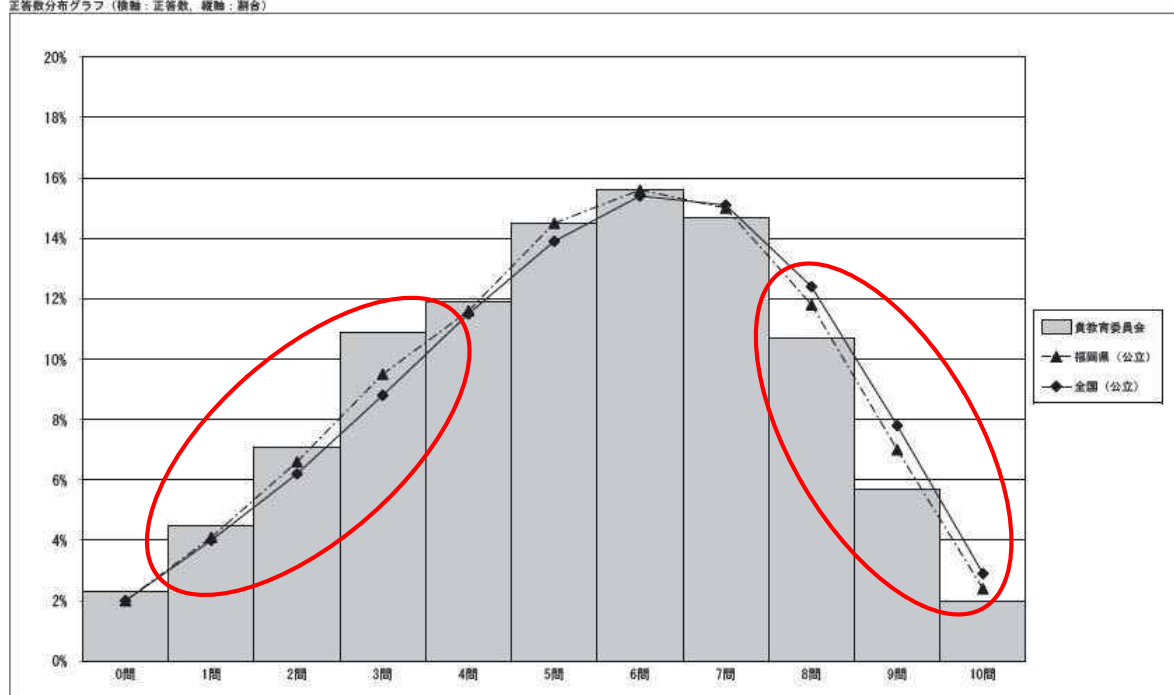


【小学校 国語B】

国語B	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	5.3/10	52.6	5.0	2.4
全国	5.5/10	55.5	6.0	2.4

全国平均正答数 (5.5問)	児童数
6問以上	3,942
5問以下	4,147

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

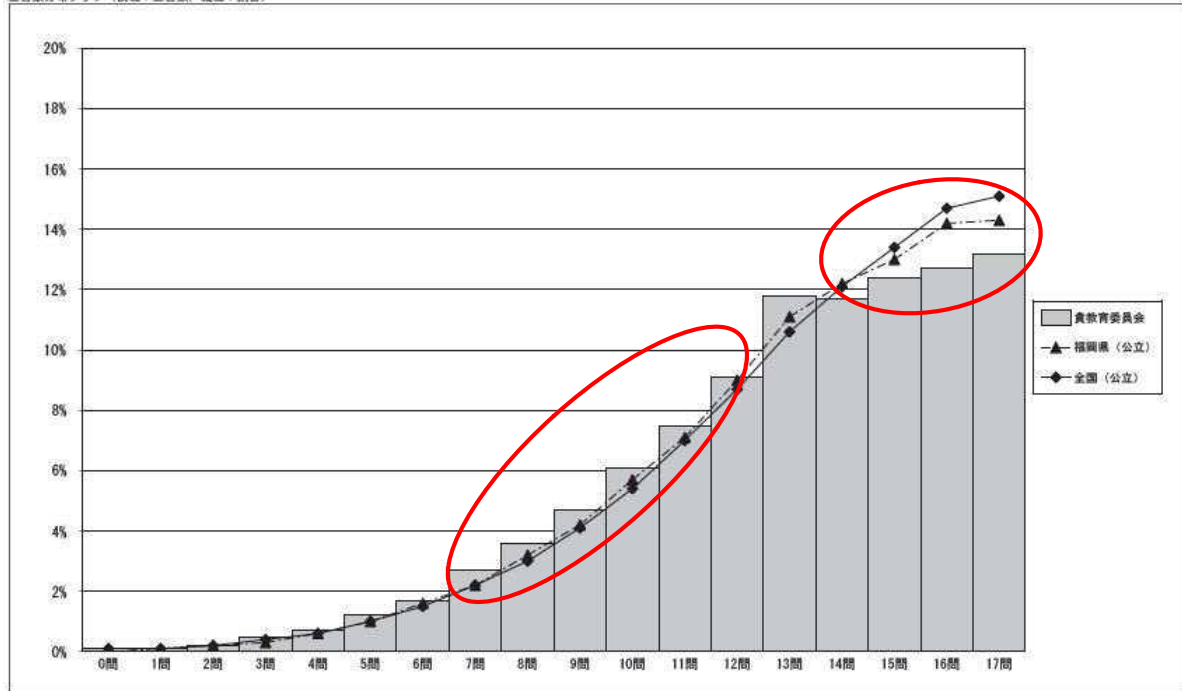


【小学校 算数A】

算数A	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	13.0/17	76.2	14.0	3.2
全国	13.3/17	78.1	14.0	3.2

全国平均正答数 (13.3問)	児童数
14問以上	4,046
13問以下	4,042

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

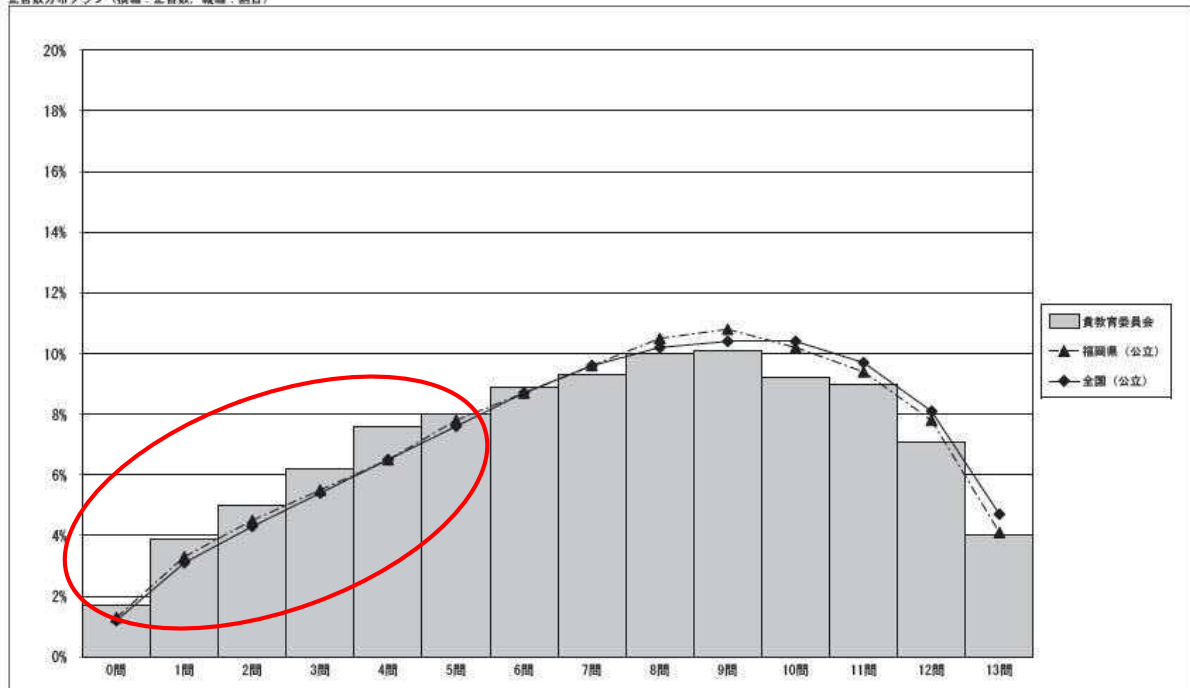


【小学校 算数B】

算数B	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	7.2/13	55.4	7.0	3.4
全国	7.6/13	58.2	8.0	3.3

全国平均正答数 (7.6問)	児童数
8問以上	3,995
7問以下	4,095

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

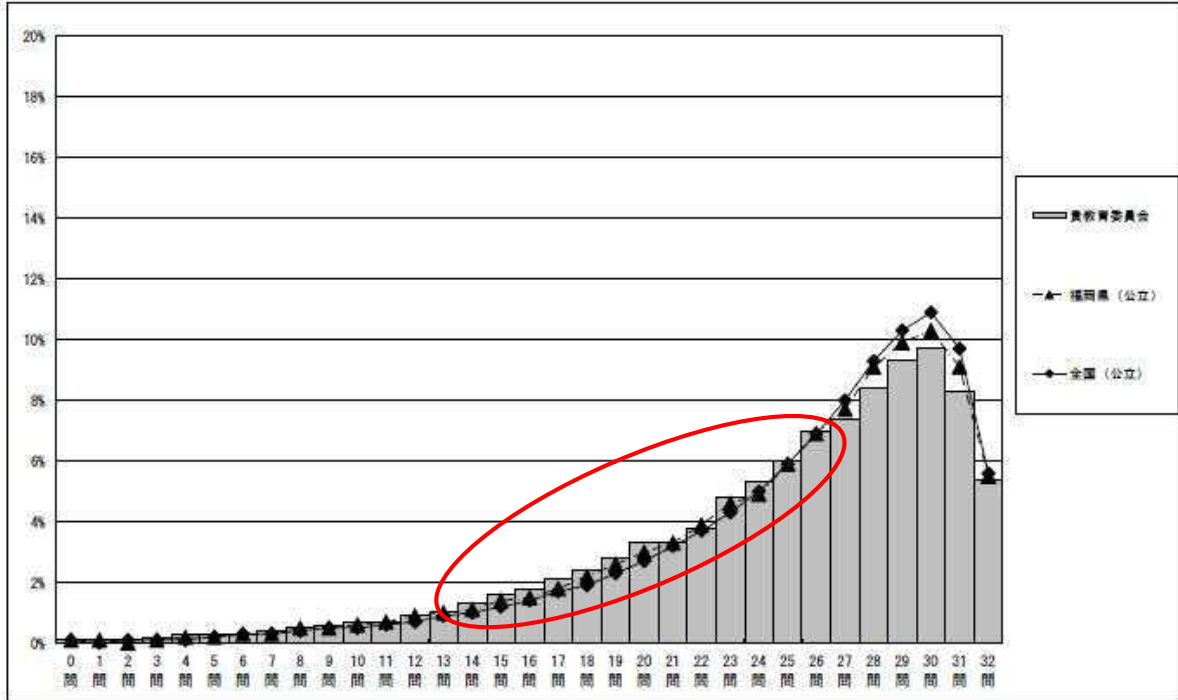


【中学校 国語A】

国語A	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	24.7/32	77.2	26.0	6.1
全国	25.4/32	79.4	27.0	5.7

全国平均正答数 (25.1問)	生徒数
26問以上	4,150
25問以下	3,327

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

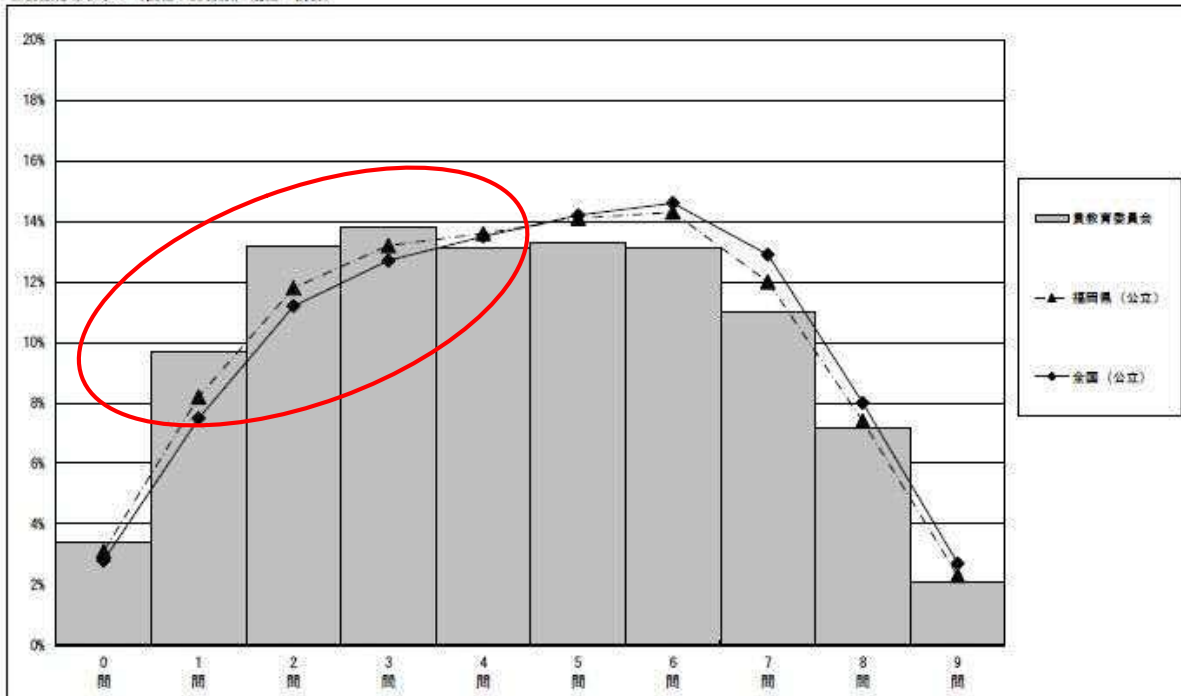


【中学校 国語B】

国語B	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	4.3/9	47.5	4.0	2.3
全国	4.6/9	51.0	5.0	2.3

全国平均正答数 (4.5問)	生徒数
5問以上	3,496
4問以下	3,987

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

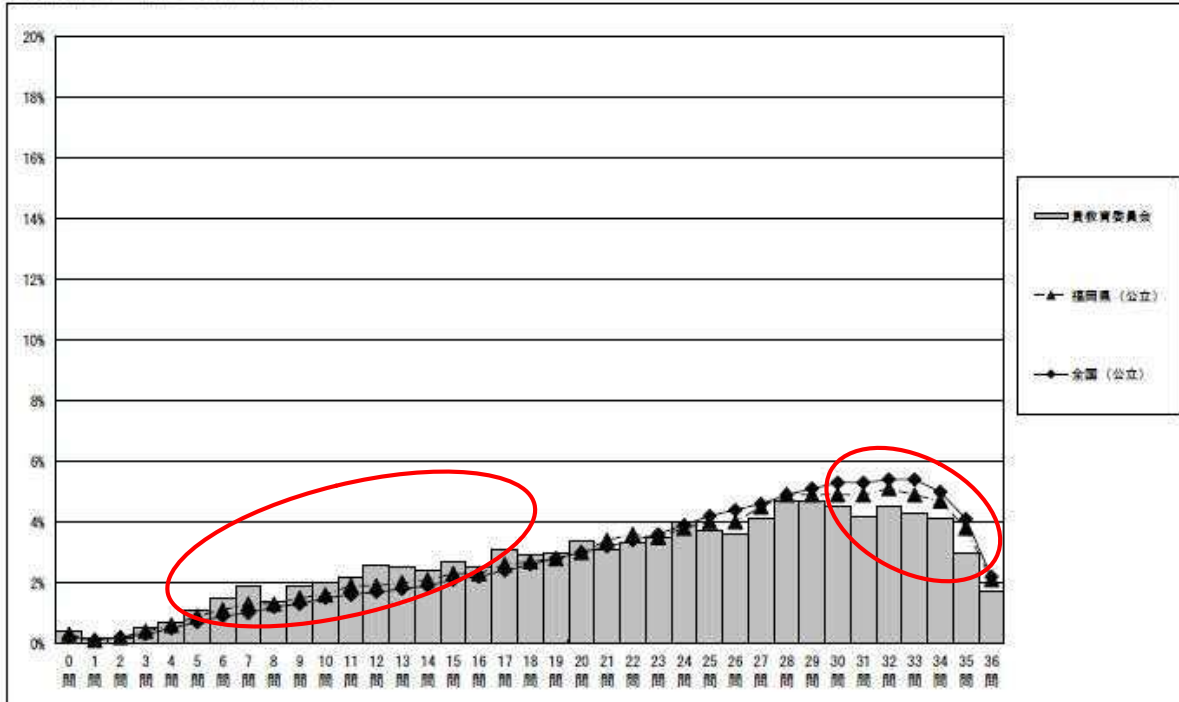


【中学校 数学A】

数学A	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	22.5/36	62.4	24.0	8.8
全国	24.3/36	67.4	26.0	8.2

全国平均正答数 (23.6問)	生徒数
24問以上	3,819
23問以下	3,668

正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)

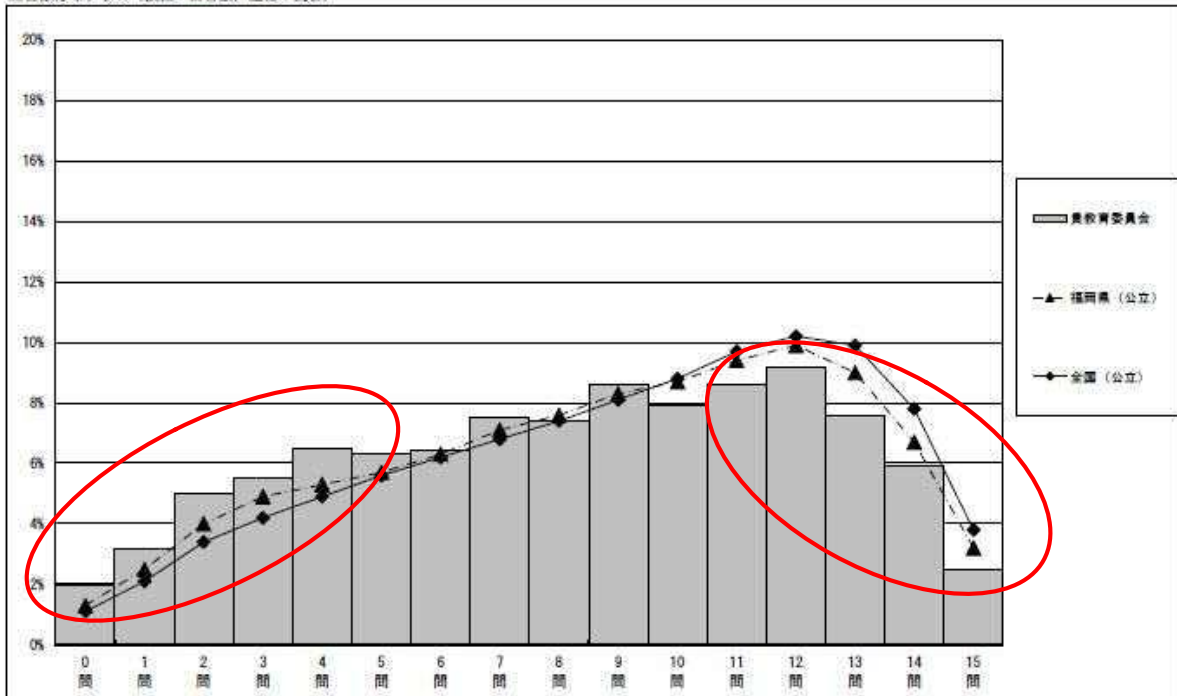


【中学校 数学B】

数学B	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
北九州市	8.2/15	54.4	9.0	4.0
全国	9.0/15	59.8	10.0	3.9

全国平均正答数 (9問)	生徒数
9問以上	3,762
8問以下	3,722

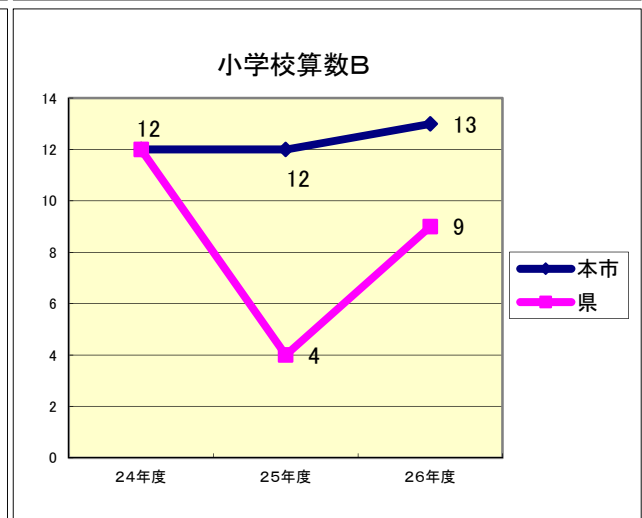
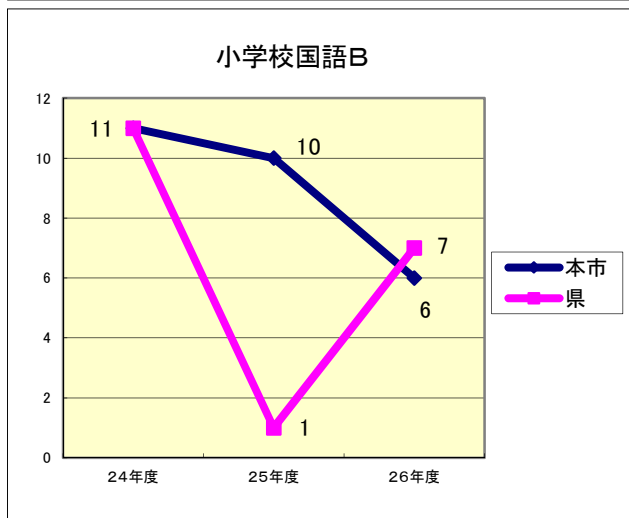
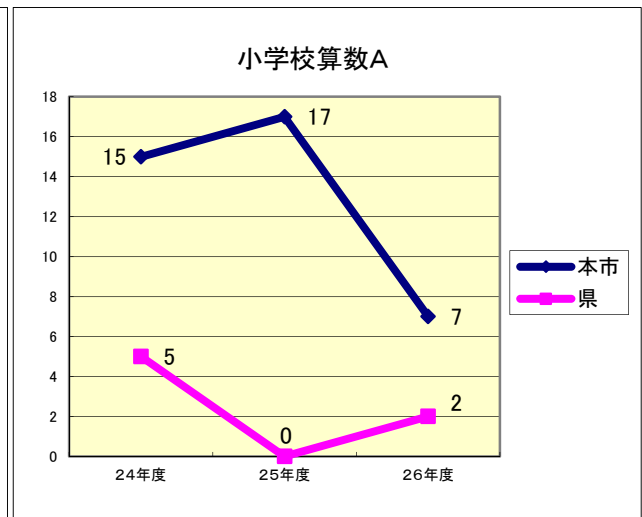
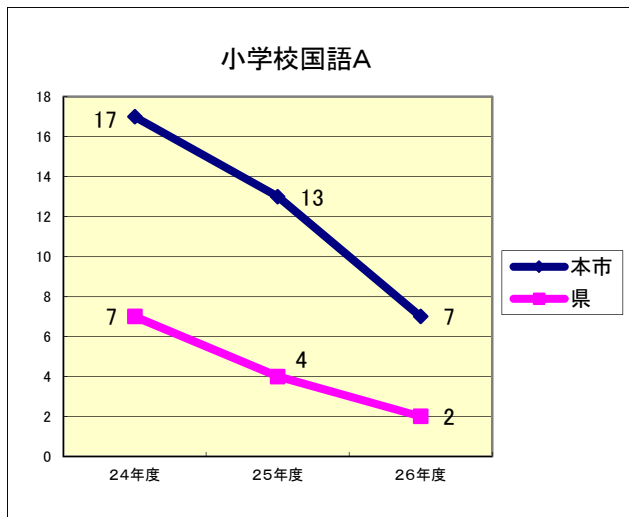
正答数分布グラフ (横軸: 正答数, 縦軸: 割合)



(2) 全国より無解答率の高い問題数の比較

(小学校)

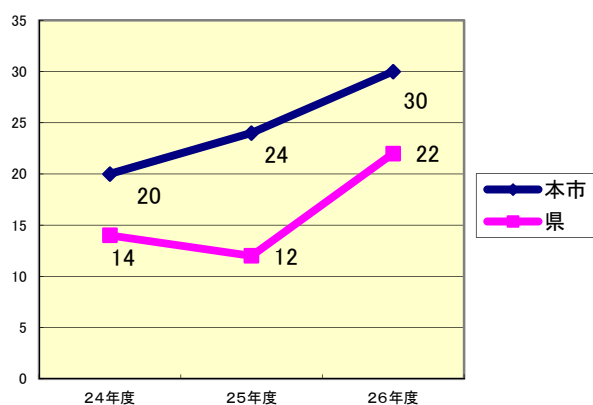
		国語			算数		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
A問題	本市	17	13	7	15	17	7
	県	7	4	2	5	0	2
	問題数	17	18	15	19	19	17
B問題	本市	11	10	6	12	12	13
	県	11	1	7	12	4	9
	問題数	11	10	10	13	13	13



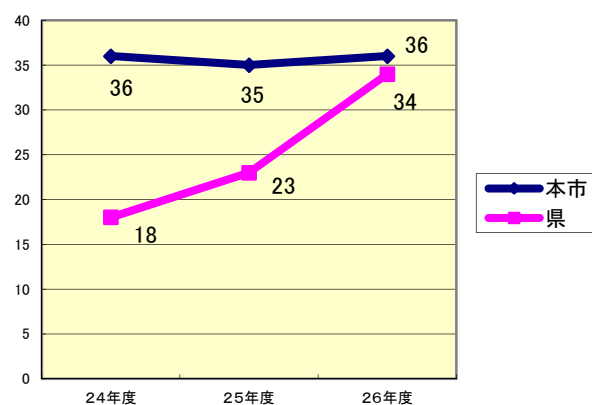
(中学校)

		国語			数学		
		24年度	25年度	26年度	24年度	25年度	26年度
A問題	本市	20	24	30	36	35	36
	県	14	12	22	18	23	34
	問題数	32	32	32	36	36	36
B問題	本市	9	9	9	15	16	15
	県	3	6	8	9	13	12
	問題数	9	9	9	15	16	15

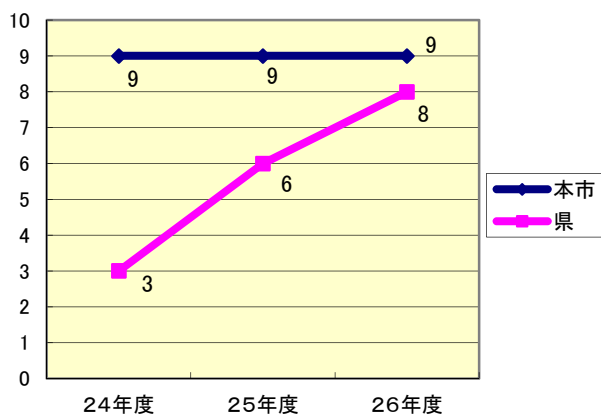
中学校国語A



中学校数学A



中学校国語B



中学校数学B

